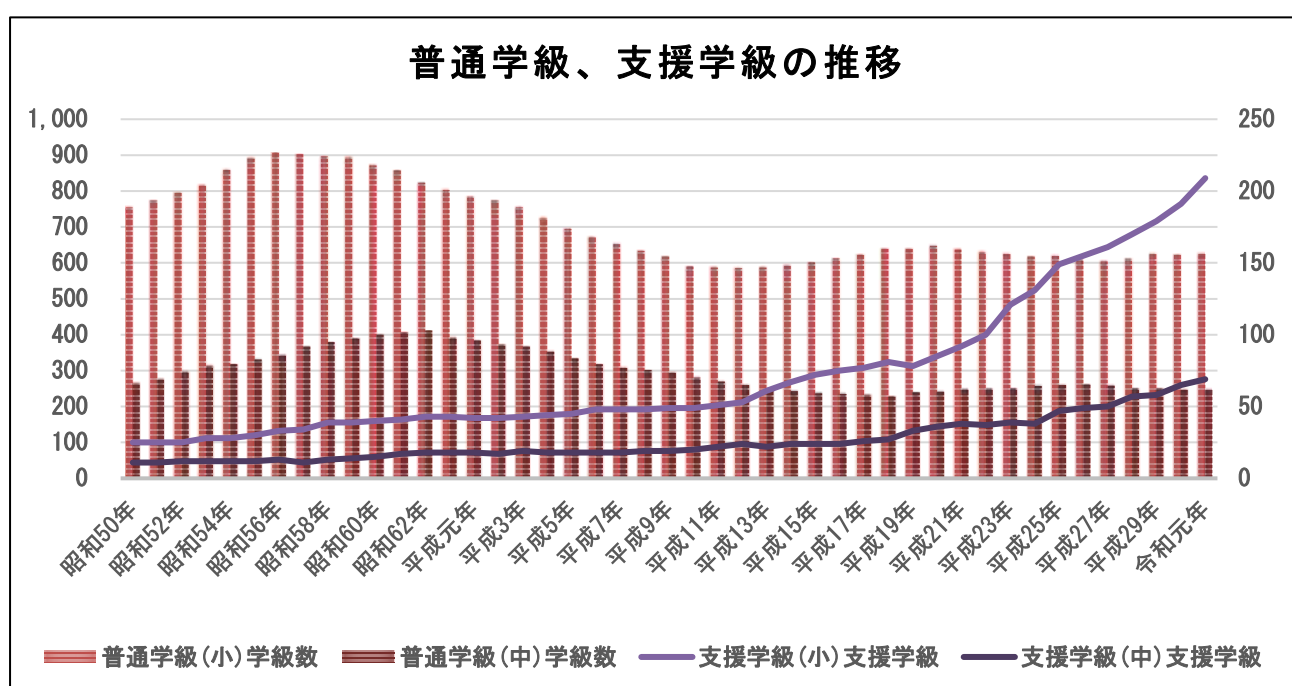
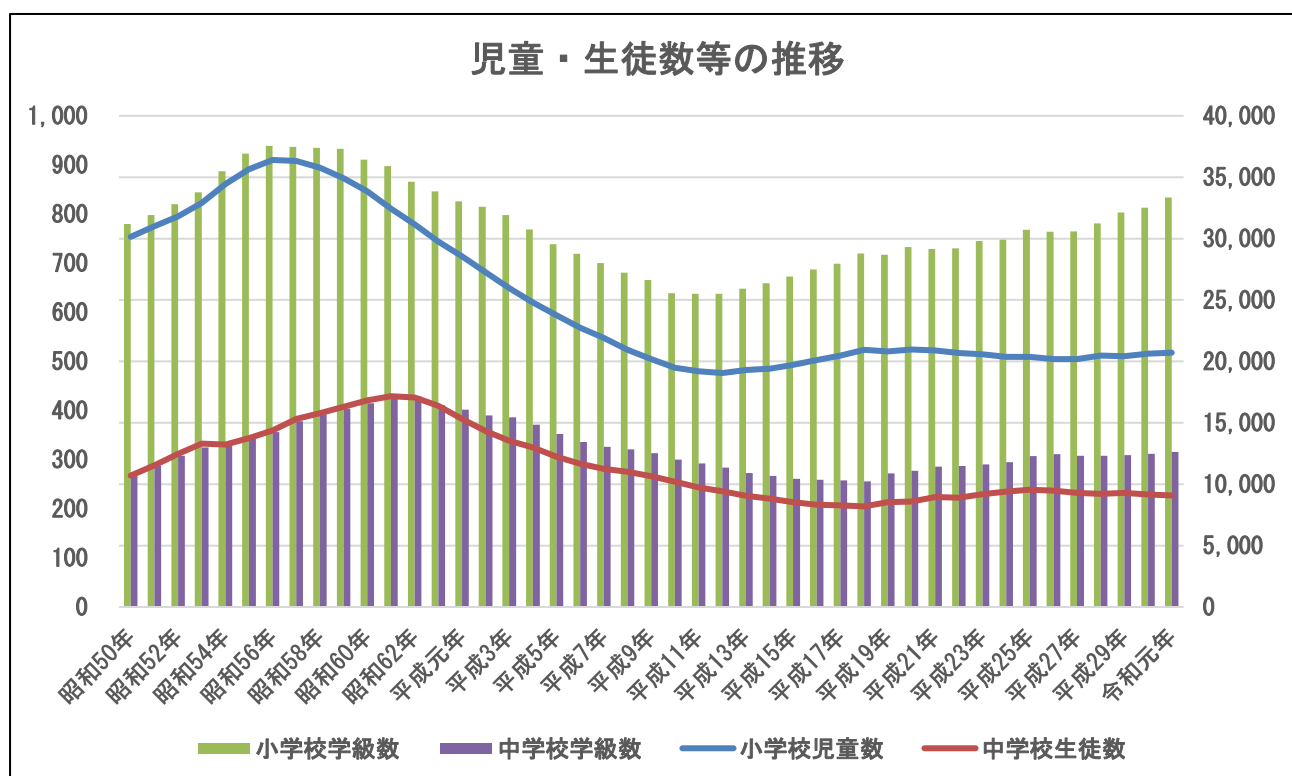


【吹田市の児童生徒数及び学級数の推移】

(1) 児童・生徒数のいままでの推移

小学校の児童数は、昭和 56 年度の 36,229 人をピークに、令和元年度では 19,552 人まで減少し、ピーク時の約 50% になっています。また、中学校の生徒数は、昭和 61 年度の 17,101 人をピークに、令和元年度では 8,740 人に減少し、小学校と同様に、ピーク時の約 50% となっています。

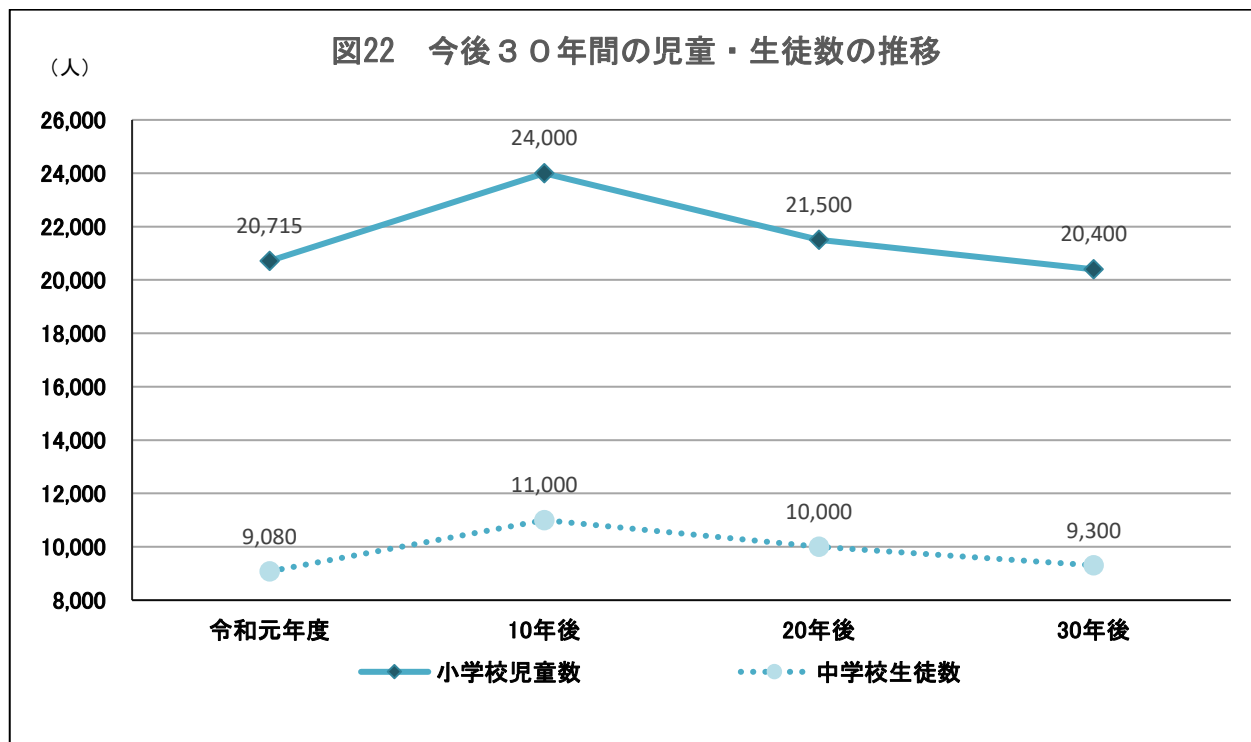
また、小学校及び中学校の学級数もほぼ同じような推移となっていますが、支援学級数をみると増加している状況です。



(2) 児童・生徒数の将来推計 (第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョンより)

市全体の児童・生徒数は、過去10年間の人口変化による純移動や現在の出生率、現在想定されている住宅開発の影響等を基に推計すると、今後10年間は増加します。その後減少に転じますが、30年後も同程度の規模を維持することが見込まれます(図22)。

また、各学校の状況は、31学級以上の過大規模校となり、教室が不足する学校が複数発生すると想定しています。一方で、全学年が単学級になる見込みの学校もあります。今後、こうした二極化を視野に入れ、多面的な対策の検討が必要です。



(3) 留守家庭児童育成室受け入れ児童等

共働き家庭の増加に伴い、すべての就学児童が放課後などを安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、平成26年(2014年)に厚生労働省及び文部科学省は、「放課後子ども総合プラン」を策定しました。(平成30年(2018年)には、「新・放課後子ども総合プラン」が策定)

留守家庭児童育成室の受け入れ児童数は平成26年度(2014年度)以降増加しており、平成29年(2017年)に対象学年を小学校4年生まで拡大したことでさらに増加しています(図18)。

図18 留守家庭児童育成室の受け入れ児童数の推移 (第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョンより)

